

沖繩伝統空手世界遠征日記

〈ヨーロッパ編〉

沖繩空手道拳法会静岡県支部剛琉館 佐藤 哲治

第二回 ハンガリー入国、 そしてスロバキアへ

成田空港からモスクワ経由で約十四時間、ハンガリーの首都ブダペスト、地元出身の偉大なピアノリストであり作曲家の名を冠したりリスト・フェレンツ空港に降り立ったのは七月十四日、現地時間の午後九時少し前でした(日本との時差・七時間)。午後九時といたっても、北海道の最北端宗谷岬より少し北にあるブダペストの夜はまだ明るく、この時期七月の御殿場の午後四時くらいといった感じでしょうか。

迎えてくれたハンガリー剛柔流空手道協会のラースロー会長と夕食をしながら、沖繩とともに稽古して以来約九か月ぶりの再会を喜び合い、日付が変わる前には郊外の瀟洒なホテルにチェックインしました。これから四日間、中欧ハンガリー、スロバキアにおける二か国三都市での沖繩伝統空手剛柔流空手拳法指導の旅が始まります。

明くる十五日の朝八時。師匠の久場良男範士十段と私は、最初の指導地スロバキア南部の都市ロシヨントゥヘ向かう車に揺られていました。ラースロー会長の運転に、現地の大学で日本語を教えながら空手指導を補助する、足柄下郡真鶴町出身の清水奈々さんが同乗して通訳してくれました。

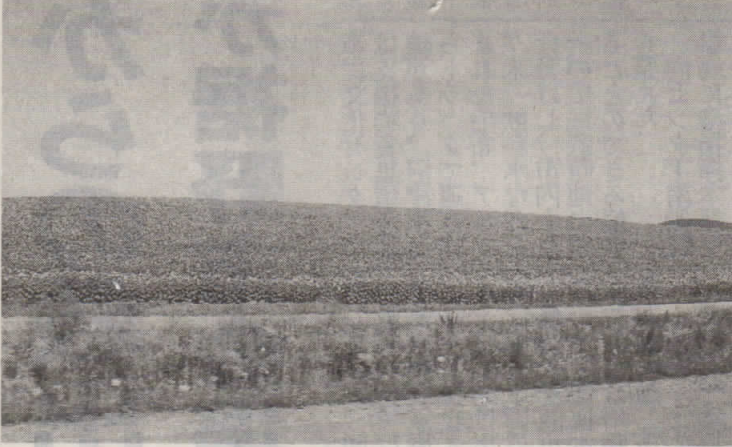
まだ見ぬ国での空手指導の前に、胸の高鳴りからか、それとも時差ぼけの影響か、昨夜は眠れたのかどうかはつきりしませんが、車窓から眺める農業国ハンガリー(国土の約半分を耕地が占める)のどかな風景は、長旅の疲れを癒してくれます。一面に広がる黄色い絨毯はひまわり畑、緑色にまぶしく広がるトウモロコシ畑、黄金色に輝くのは麦畑、そんな中にもところどころにかわいらしいオレンジ屋根の小さな集落が見られます。そんなのどかな風景を眺めていると、一瞬御殿場の国道469号、板妻の交差点を過ぎて須山方面に向かっていているような気がしました。

「我が故郷の風景は欧州にも似たり…」一人にやにやすするのを怪しまれぬよう、慌てて真面目な顔に戻っていると、何か料金所のようなゲートが迫ってきました。ハンガリーとスロバキアの国境です。しかし、国境

境といつてもただゲートがあるだけ。ノーチェックで通り抜けると、そこはもうスロバキアです。パスポートのスタンプも増えないのは不思議な感じでしたが、EU加盟国内ではそんなものなのでしょう。

スロバキアに入国しても、見渡す風景はハンガリーと変わった感じはありません。かつてハンガリー領だった時代もあるのが当然かもしれませんが、ちょうど何かの看板が目に入ったので、「あの看板は何語で書いてあるのですか?」と清水さんに尋ねると、「スロバキア語です」とのこと。日本人の私にはハンガリー語もスロバキア語も見分けがつきませんが、英語、ハンガリー語の堪能な清水さんでも、隣のスロバキア語は難しいとのこと。ノーチェックの国境でも、これを越えれば当然言葉も変わってくるようでした。

ともあれ、約三時間のドライブで最初の指導地スロバキアにも無事到着。広々とした稽古会場には、百人ほどの参加者が待っていました。いよいよ稽古の始まりです。師匠から譲り受けた空手衣に袖を通すと、気持ちさがぎゅつと引き締まりました。(つづく)



一面に広がるひまわり畑

大切な人を自死で亡くした人の集い「東部わかちあいすみれ会」は、二十三日午後一時半から三時半まで沼津市日の出町のぬまづ健康福祉プラザで開かれ、思いを語り合い支え合う。匿名や仮名での参加もできる。問い合わせは眞精神

くした人の集い
おはなしの会
【小山】小山町立図書館のおはなしの会が、毎週土曜日午前十時三十分から開かれていた。

【小山】小山町立図書館のおはなしの会が、毎週土曜日午前十時三十分から開かれていた。

役職員ら1463人署名

御殿場農協が交通安全宣言書

【御殿場】御殿場役職員および関連会農業協同組合は四日、社の社員千四百六十



三人が署名した交通安全宣言書を御殿場署の鈴木宏哉署長に提出した。秋の全国交通安全運動に先立ち、行っているもの。芹沢組合長らが同署を訪れ、芹沢組合長が宣言を読み上げ、鈴木署長に手渡した。宣言書は①子どもと高齢者に配慮した思いやり、いたわり運転に努める②早めのライト点灯、早めの合図の履行、自発光式反射材の着用など。【写真】交通安全宣言書が芹沢組合長から鈴木署長に手渡される。御殿場署署長室で。